

(5) 今後の展開

- ①今回作成した「雑木林管理 作業の手引き」を今後現場で徹底する。夏には研修会も持つ予定である。これまで見て習った技術を、文字と図で確かめることで再確認し、事故や怪我を予防したい。今後、より広い市民の参加も考えられ、また他の竹林でも同様の試みがされると思う。そのためにも、作業の内容を事前に学習し、均質化する必要が出てくることだろう。この「作業の手引き」をもとに、その都度ポイントを押さえた確認を行いたい。
- ②竹林間伐と苗移植が一段落した後、本格的な雑木林の手入れに入る。そのための学習内容や山の遊歩道作りもこの「作業のてびき」に盛り込み、将来的に対応できるものとした。
- ③間伐等の手入れを通じて、市民が身近な自然に親しむ活動は、これから増えてくると思われる。市民団体の手に委ねるだけでなく、市も運営面、資金面で協力する必要が出てくるだろう。市民と行政とのパートナーシップで、他地域でも周辺住民とともに、同様な試みを展開したい。

(6) 活動のポイント

●活動の人材

会員のほぼ全員が豊中市民である。40～70代の会社員、主婦、退職者、自営業が集まっている。中心は50～60代で、男女の比率は男性がやや多い。自然観察会を運営していた当時のメンバーと、新しく里山管理に興味をもって参加したメンバーがある。

自然全般の知識を持っている前者と里山管理の技術を持っている後者が協力しあうことで、伐り過ぎず適切な間伐作業ができています。

●活動のための資金調達

手入れの道具一式（竹伐り用ノコギリ、ナタ、カマ、剪定鋏等）は大阪府みどりのトラスト協会の助成金で購入した。

「雑木林管理 作業の手引き」は今回の助成金で作成できた

●活動のネットワーク・支援

（社）大阪自然環境保全協会の「里山管理者養成講座」を受講した人が間伐現場の中心になることが多かった。直接の支援ではないが心強かった。

豊中アジェンダ21推進会との交流で、市内の自然の状況を情報交換できた。

以上

参考文献：「新豊中市史 自然」豊中市発行

「見てふれて感じて とよなか島熊山の自然」島熊山の雑木林を守る会発行